

日本産鳥類記録リスト (4)

日本産鳥類記録委員会*

日本産鳥類記録委員会では活動の一環として、記録が極端に少ない種について、引用可能な文献として公表されたものの調査・収集・整理を行い「日本産鳥類記録リスト」として随時学会誌を通じて公表を行っている。今回はチメドリ科、ヒタキ科、シジュウカラ科、アメリカムシクイ科の11種について調査結果を報告する。なお、この報告は学会による記録公認を意味するものではなく、掲載されている記録の妥当性などについては未検討であることに注意されたい。リストに掲載されていない文献記録をご存知の方は、記録委員会にお知らせいただきたい。また、未発表の記録をお持ちの方は、ぜひ、引用可能な文献としての公表をお願いします。このリストの趣旨についての詳細は日本鳥学会誌51(2): 132-133、「日本産鳥類記録リスト」を参照されたい。委員会が過去に公表したリストや活動報告は、学会のホームページ (<http://www.soc.nii.ac.jp/osj/>) にて閲覧可能なので、そちらもご覧いただきたい。

16. チャエリカムリチメドリ *Yuhina flavicollis* (表1)

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず、Appendix B 検討中の種・亜種にも含まれていない。本委員会の調査により、文献上1例の記録が確認された(表1)。

記録1(神奈川県立自然保護センター野生動物課 1998)は、神奈川県厚木市で記録されたもので、記録時の状況についての記述と測定値などが掲載されている。それによれば、この個体は1997年3月30日に厚木市長谷の林内で横たわっているところを保護され、翌日死亡したものである。ま

た、この個体について「迷鳥であったのか、かごぬけであったのか、判定するには至らなかった。」との記述が掲載されている。なお、記録された個体の形態や同定の根拠については記述されていない。この記録は、日本野鳥の会神奈川支部(2002)にも掲載されており、逸出種として扱われ、「本県の野外で観察された外国産鳥類の中で、記録回数が少なく(概ね5回以下)、定着にはいたっていないと考えられる種」のリストの中に入れられている。

引用文献(文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. 神奈川県立自然保護センター野生動物課(1998) 神奈川県下で観察された野生動物の目撃記録。神奈川県立自然保護センター報告集(15): 25-28.
2. 日本野鳥の会神奈川支部(2002) 20世紀神奈川の鳥—神奈川県鳥類目録IV—。日本野鳥の会神奈川支部, 横浜。

17. ヒゲガラ *Panurus biarmicus* (表2)

日本鳥類目録改訂第6版では、記録として3例が挙げられており、全て亜種ヒゲガラ *P. b. russicus* とされている。本委員会の調査により、文献上6例の記録が確認された(表2)。

記録1(内田 1921)は、山形県で記録されたと思われるもので、記録時の状況や記録された個体の状態などについての記述が掲載されている。それによれば、この個体は細矢 貞氏によって霞網猟の際に捕獲され、約2ヶ月間飼育されていた。1921年1月7日に死亡した後、内田清之助氏に送付され、同氏によって同定されたものである。内田(1921)は、本個体について「鳥体は約2ヶ月間飼育されたものにも係わらずきわめて美しく、別にいたんだ箇所もなく、勿論その以前飼育せられたものと認むべき形跡もない」と記述し、捕獲時の状況、本種の分布を考えあわせた上で「秋の渡

表1. チャエリカムリチメドリ *Yuhina flavicollis*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1997.3.30	神奈川県	厚木市長谷	—	—	1	森 茂男	保護, モノクロ2死亡		1	2

—: 記述なし・掲載なし

表2. ヒゲガラ *Panurus biarmicus*

No.	記録 年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の 掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1920.10.22	—	—	—	オス	1	細矢 貞	捕獲, 飼育, 死亡	—	20	1, 2, 8, 9, 19, 21
2	D 1969.11.15	新潟県	新潟市	成鳥	オス	1	風間辰夫	捕獲, 死亡	—	7	2, 8, 13, 21
3	1991.9.21, 27, 28, 10.8	東京都	練馬区 石神井公園 三宝寺池	—	—	1	小泉義信, 山根茂生, 牧口玲子, 鈴木いつの, 雨宮力男	観察, 撮影	モノクロ1, 小野寺秀人	8	17
4	1991.10.16	新潟県	豊栄市 福島潟	成鳥	オス	1	茂田良光	捕獲, 標識, 撮影	モノクロ1, 茂田良光	21	6, 10
5	P 1994.11.20	千葉県	市川市	成鳥 冬羽	オス	—	原島政巳	撮影	カラー3, 原島政巳	5	3, 11, 15
6	D 1995	千葉県	—	—	—	1	亀谷辰朗*	捕獲, 標識	—	16	4, 12

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 場所, 記録者など)のみ

P: 写真と最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 場所, 記録者など)のみ

*: 本文参照

りの際の迷鳥として本邦に渡来したる事は疑もなき事実である」と結論づけている。なお、内田(1921)は、この個体の捕獲地について明記しておらず、捕獲者の居住地として「山形県最上郡古口」と記述しているのみであるが、日本鳥学会(1922)以降の文献は、いずれもこの地名(もしくは山形県最上郡や山形県)を捕獲地として採用している。また、内田(1921)は、記録された個体を亜種ヒゲガラ *P. b. russicus* に同定しているが、同定の根拠を示しておらず、この種の一般的な形態について記述しているのみである。この記録の裏付けとなる標本は現在、所在不明である。この記録は、日本初記録として多くの文献に掲載されている(Takatsukasa & Hachisuka 1925, Austin & Kuroda 1953, 清棲 1978, Brazil 1991, 山階鳥類研究所標識研究室 1992, 小泉ら 1992など)。これらのうち清棲(1978)では、記録年月日が1920年10月21日となっているが、誤植または誤引用と思われる。

記録2(風間 1986)は、新潟県新潟市で記録されたもので、記録年月日、場所以外には「標識調査中捕獲されたが、落鳥した。雄の成鳥であった。」とのみ記述されている。なお、この記録は、新潟県野生鳥獣生態研究会(1982), Brazil(1991), 小泉ら(1992), 山階鳥類研究所標識研究室(1992)

にも掲載されている。この記録の裏付けとなる標本の作成の有無・保存場所については、現在のところ不明である。

記録3(小泉ら 1992)は、東京都練馬区で記録されたもので、記録時の状況や記録された個体の形態や鳴き声についての記述が掲載されている。小泉ら(1992)は、本種の移動能力や記録されたのが台風通過後であったことに加え、籠抜けの鳥の一般的な野外生存期間を越える18日間以上確認されたことなどから、本個体を「籠抜けではない」と思っている」と記述している。この記録は、日本野鳥の会(1992)にも掲載されているが、この文献には「かご抜け」と記述されている。また、長谷川桂子、保坂君子、金沢伸行、小野寺秀仁、竜川恵美子の各氏が観察者として加えられている。なお、この記録は日本野鳥の会野鳥記録委員会(1992)には掲載されていないことから、公式記録としては認められなかったものと推測される。

記録4(山階鳥類研究所標識研究室 1992)は、新潟県豊栄市で記録されたもので、記録年月日、場所、性別、年齢、記録者と捕獲されたのが「低気圧通過直後の雨の合間であった」こと、「飼育の兆候が認められなかった」ことが記述されている。本個体は標識放鳥されたもので、捕獲時の状

況や記録された個体の形態などについては、金田(1992)に記述されている。ただし、この文献には、記録年が明記されていない。放鳥者は、金田(1992)によれば、茂田良光、金田彦太郎の両氏である。この記録は、無記名(1992)にも掲載されているが、放鳥者は標識研究室と記述されている。

記録5(五百沢ら2000)は、千葉縣市川市で記録されたもので、記録年月日、場所、性別、年齢、記録者のみが写真のキャプションとして掲載されている。この記録は、蓮尾(1995a)、無記名(1995a)にも掲載されており、標識調査で捕獲されたものであることや、1ヶ月後の12月20日にも同一個体が再捕獲されたことなどが記述されている。ただし、蓮尾(1995a)、無記名(1995a)には、記録年が明記されていない。また、この記録は、日本鳥類標識協会(1996a)にも掲載されており、それによれば、捕獲された個体数は1羽、放鳥者は原島政巳氏である。

記録6(日本鳥類標識協会1996b)は、千葉県で記録されたもので、記録年、場所、個体数、放鳥者のみが掲載されており、記録月日は記述されていない。この記録は、蓮尾(1995b)、無記名(1995b)にも掲載されており、蓮尾(1995b)には、11月20日に行徳において標識調査の際捕獲されたこと、翌週にも再度捕獲されたこと、捕獲されたのが若い雄であったことが記述されている。無記名(1995b)には、それらに加え「標識をつけていないので昨年とは別個体」との記述がある。ただし、蓮尾(1995b)、無記名(1995b)には、記録年が明記されていない。なお、この個体の放鳥者は、日本鳥類標識協会(1996b)に亀谷辰朗と記述されているが、実際には原島政巳氏である。

このほか、Takatsukasa & Hachisuka(1925)は「1920年10月22日に山形県で日本国内では初めての個体が網にて捕獲され、しばらく飼育された。その後、これまでにおおよそ3個体がほぼ同じ場所で得られている。」と記述している。しかし、この「3個体」については正確な記録年すら不明であることから、ここでは参考としてあげるにとどめる。なお、Takatsukasa & Hachisuka(1925)の記述内容は、Brazil(1991)、山階鳥類研究所標識研究室(1992)にも掲載されている。

引用文献(文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

- Austin Jr. OL & Kuroda N (1953) The birds of Japan: Their status and distribution. Bull. Mus. Comp. Zool. Harvard 109(4): 279-613.
- Brazil MA (1991) *The birds of Japan*. Christopher Helm, London.
- 蓮尾純子(1995a) 鳥の国から。すずがも通信(90): 3.
- 蓮尾純子(1995b) 鳥の国から。すずがも通信(95): 3.
- 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2000) 日本の鳥550山野の鳥。文一総合出版、東京。(写真掲載はp.198)
- 金田彦太郎(1992) 国内初標識放鳥記録: ヒゲガラ。バンダーニュース(2): 5.
- 風間辰夫(1986) 鳥類標識による新潟県の新記録種。日本鳥類標識協会誌1(1): 11-13.
- 小泉義信・山根茂生・牧口玲子・鈴木いつの・雨宮力男(1992) 珍鳥ヒゲガラ発見記。ユリカモメ(435): 21.
- 清棲幸保(1978) 増補改訂版日本鳥類大図鑑I。講談社、東京。
- 無記名(1992) 県別新放鳥一覧(1991.1-1991.12.31)。日本鳥類標識協会誌7: 49-65.
- 無記名(1995a) 1・2月の新浜から。すずがも通信(90): 2.
- 無記名(1995b) 11・12月の新浜から。すずがも通信(95): 2.
- 新潟県野生鳥獣生態研究会(1982) 新潟県鳥類目録(1981年12月31日現在)。新潟県野生鳥獣生態研究会会報(6): 2-21.
- 日本鳥学会(1922) 日本鳥類目録。日本鳥学会、東京。
- 日本鳥類標識協会(1996a) 県別新放鳥一覧(1994年)。日本鳥類標識協会誌11: 5-21.
- 日本鳥類標識協会(1996b) 県別新放鳥一覧(1995年)。日本鳥類標識協会誌11: 39-55.
- 日本野鳥の会(1992) フィールドノート。野鳥57(5): 50.
- 日本野鳥の会野鳥記録委員会(1992) 野鳥情報・観察記録1991.8-1992.7. Strix 11: 377-382.
- Takatsukasa N & Hachisuka M (1925) A contribution to Japanese ornithology. Ibis ser. 12, 1(4): 898-908.
- 内田清之助(1921) 二種の迷鳥「ヒゲガラ」及「ノドグロツグミ」に就て。鳥3(11): 7-10.
- 山階鳥類研究所標識研究室(1992) 平成3年度鳥類観測ステーション報告。山階鳥類研究所、千葉。(写真掲載はp.11)

18. ダルマエナガ *Paradoxornis webbianus* (表3)

日本鳥類目録改訂第6版では、自然分布とするには疑問があるとの理由から検討中の種としてAppendix Bに掲載されている。本委員会の調査により、文献上1例の記録が確認された(表3)。

記録1(風間1984)は、新潟県粟島で記録されたもので、記録時の状況についての記述と測定値などが掲載されている。それによれば、この個体は標識調査中に霞網によって捕獲されたもので、

表3. ダルマエナガ *Paradoxornis webbianus*

No.	記録 年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の 掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1984.5.5	新潟県	岩船郡 粟島浦村	成鳥	オス	1	風間辰夫	捕獲, 死亡	モノクロ1	2	1, 3, 4, 5, 6

—: 記述なし・掲載なし

表4. ミヤマヒタキ *Muscicapa ferruginea*

No.	記録 年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の 掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	D 1971.4.30	長崎県	男女群島 女島	—	—	1	北九州 野鳥の会	観察	— (関連文 献にあり)	12	1, 3, 9, 10, 12, 16, 17, 18, 19
2	P 1983.4.23– 24	鹿児島県	平島	—	—	2	福島善浩	観察	カラー1	6	1, 3, 5, 8, 17, 19
3	D 1984.4.1– 10	沖縄県	与那国島	—	—	1	Hideo Yazawa, Mitsuhiko Okuhara	観察, 撮影	—	11	1, 3, 14, 17
4	P 1986.4.17	鹿児島県	鹿児島郡 十島村平島	不明	不明	1	百瀬邦和 ら	捕獲, 標識, 撮影	モノクロ1, 百瀬邦和	19	1, 3, 4, 6, 7, 8, 13, 17
5	D 2000.4	沖縄県	与那国島	—	—	1	—	観察	—	14	17
6	2000.4.29	鹿児島県	鹿児島郡 十島村平島	—	—	1	所崎 聡, 上野信一郎	観察, 撮影	カラー2, 上野信一郎	17	2

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 場所など)のみ

P: 写真と最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 場所, 記録者など)のみ

弱っていたために保護されたが, 10数分後に死亡した。迷行の原因として風間(1984)は「日本海に到来した台風なみの低気圧」をあげている。なお, 記録された個体や同定の根拠については記述されていない。この記録は, 日本初記録として, 山階鳥類研究所標識研究室(1985), 風間(1986), 園部(1986), 日本野鳥の会(1988), Brazil(1991)にも掲載されている。これらの文献のうち, 記録個体のカラー写真は日本野鳥の会(1988)にのみ掲載されている。この記録の裏付けとなる標本は, 現在, 岐阜県博物館に所蔵されている(風間辰夫氏私信)。

引用文献(文献番号は, 表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. Brazil MA (1991) *The birds of Japan*. Christopher Helm, London.
2. 風間辰夫(1984) ダルマエナガ日本へ迷行。鳥33: 77–78.

3. 風間辰夫(1986) 鳥類標識による新潟県の新記録種。日本鳥類標識協会誌1(1): 11–13.
4. 日本野鳥の会(1988) 日本に舞い降りた野鳥たち。野鳥53(4): 10–21.
5. 園部浩一郎(1986) 野鳥識別ノート11 新たに記録された野鳥。野鳥51(4): 6.
6. 山階鳥類研究所標識研究室(1985) 昭和59年度鳥類観測ステーション報告。山階鳥類研究所, 千葉。

19. ミヤマヒタキ *Muscicapa ferruginea* (表4)

日本鳥類目録改訂第6版では, 論文として公表されていない, または公表されたが最終原稿に間に合わなかったとの理由から検討中の種としてAppendix Bに掲載されている。本委員会の調査により, 文献上6例の記録が確認された(表4)。

記録1(日本野鳥の会1978)は, 長崎県男女群島女島で記録されたものであるが, 記録年月日, 場所, 個体数のみが掲載されている。この文献の記述は, 内田(1973)を引用したことが示されてい

るが、内田(1973)には本種の記録として「1971年5月、長崎県男女群島での1例だけである」と記述されており、記録月などに食い違いが見られる。この記録は、日本野鳥の会(1978)の他にも多くの文献に掲載されており(北九州野鳥の会1972, 高野1980, 高野ら1981, 小林1983, 山階鳥類研究所標識研究室1987, Brazil1991, バーダー編集部1993, 所崎2000など), 高野ら(1981)には、岡本久人氏撮影の写真とともに「長崎県男女群島で、1971年5月に、岡本久人氏らによって撮影されている」との記述が掲載されている。前述したように、この記録の記録月については、文献により表記に違いが認められ、1971年4月30日としているもの(日本野鳥の会1978, 高野1980, 小林1983, バーダー編集部1993)と1971年5月としているもの(内田1973, 高野ら1981, 山階鳥類研究所標識研究室1987, Brazil1991, 所崎2000)がある。この点について、記録1の個体を直接観察した西田智氏と岡本久人氏に確認したところ「この個体を最初に確認したのは1971年4月30日午前10:15頃で、男女群島女島の浜辺近くにあった錆びたワイヤーの上にとまっていた。」(西田智氏私信), 「この個体は、最初の発見後数日間観察され、高野ら(1981)掲載の写真は、5月に撮影されたものだと思う」(岡本久人氏私信)との回答を得ている。高野(1980)は、この個体について「渡りのコースなどから考えて、籠ぬけの可能性も考えられ」と記述し、小林(1983)は「台湾か中国大陸から迷行して来たものと考えられる。」としている。なお、高野ら(1981)では写真キャプションに「鹿児島県男女群島」と記述されているが、長崎県の誤りである。

記録2(鹿児島県保健環境部環境管理課1987)は、鹿児島県トカラ列島平島で記録されたものであるが、記録された個体については、記録者以外に「1983.4.23-24: 2羽」との記述のみが掲載されている。この記録は、鹿児島県保健環境部環境管理課(1987)の他にも多くの文献に掲載されている(川路ら1987b, 山階鳥類研究所標識研究室1987, Brazil1991, バーダー編集部1993, 所崎2000)。そのうち、川路ら(1987b)には「観察された」ことが明記されている。また、鹿児島県環境生活部環境保護課ら(2002)には、鹿児島県保健環境部環境管理課(1987)に掲載されているのと同じ写真が寺原隆氏撮影として掲載されている。なお、Brazil(1991)では、本記録の記録年月日が1983年4月2日となっているが、これは誤植または誤引用

と思われる。

記録3(McWhirter *et al.* 1996)は、沖縄県与那国島で記録されたもので、記録年月日、場所、個体数、記録者および観察・撮影されたとの記述のみが掲載されている(原文英語)。なお、写真が撮影されたとの記述があるが、写真は掲載されていない。この記録は、Brazil(1991), バーダー編集部(1993), 所崎(2000), 沖縄野鳥研究会(2002)にも掲載されている。

記録4(山階鳥類研究所標識研究室1987)は、鹿児島県トカラ列島平島で記録されたもので、記録年月日、場所、個体数、記録者および捕獲・標識・放鳥されたとの記述などが掲載されている。この記録は、山階鳥類研究所標識研究室(1987)の他、多くの文献に掲載されている(無記名1986, 鹿児島県保健環境部環境管理課1987, 川路ら1987ab, Brazil1991, バーダー編集部1993, 五百沢ら2000, 所崎2000)。この個体の写真は、バーダー編集部(1993), 五百沢ら(2000)にも掲載されている。

記録5(沖縄野鳥研究会2002)は、沖縄県与那国島で記録されたもので、記録年月、場所、個体数のみが掲載されている。この個体は、佐藤進氏によって与那国島祖内で2000年4月23日に確認されたもので、その映像は、山と溪谷社ビデオコレクション「日本の鳥618」(2003年山と溪谷社発行)に収録されているとのことである(佐藤進氏私信)。この記録は所崎(2000)にも掲載されている。

記録6(所崎2000)は、鹿児島県トカラ列島平島で記録されたもので、記録時の状況、記録された個体の形態や行動などについての記述が掲載されている。なお、この個体の写真は、バーダー編集部(2001)にも掲載されている。

なお、本種の和名は、文献によってミヤマヒタキと記述される場合とミヤマビタキと記述される場合の両方が認められるが、日本鳥学会では、1922年発行の日本鳥類目録以降、「ミヤマヒタキ」を採用している。

引用文献(文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. バーダー編集部(1993)ヒタキカタログ。BIRDER 7(5): 8-9, 12-13, 16-17, 19, 22-23.
2. バーダー編集部(2001)写真集日本の鳥2000。文一総合出版, 東京。(写真掲載はp. 90)
3. Brazil MA(1991) *The birds of Japan*. Christopher Helm, London.

4. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸 (2000) 日本の鳥 550 山野の鳥. 文一総合出版, 東京. (写真掲載は p. 236)
5. 鹿児島県環境生活部環境保護課・第56回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」鹿児島県実行委員会「記念誌」編集検討会・鹿児島県環境技術協会編 (2002) 第56回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」記念誌 かしまの野鳥. 鹿児島県環境生活部環境保護課, 鹿児島.
6. 鹿児島県保健環境部環境管理課編 (1987) 鹿児島県の野鳥. 鹿児島県公害防止協会, 鹿児島.
7. 川路則友・安部淳一・高良武信・溝口文男・松下義範・沼 秀昭・今村克行 (1987a) 鹿児島県産鳥類目録. Strix 6: 20-30.
8. 川路則友・迫 静男・高良武信 (1987b) トカラ列島平島における春期の鳥相. 日本鳥学会誌 36: 47-54.
9. 北九州野鳥の会 (1972) 男女群島の野鳥. どうぶつと動物園. 24(4): 20-21.
10. 小林桂助 (1983) 原色日本鳥類図鑑 新訂増補版. 保育社, 大阪.
11. McWhirter DW, Ikenaga H, Iozawa H, Shoyama M & Takehara K (1996) A Check-list of the birds of Okinawa Prefecture with notes on recent status including hypothetical records. Bulletin of the Okinawa Prefectural Museum (22): 33-152.
12. 日本野鳥の会 (1978) 昭和52年度環境庁委託調査特定鳥類等調査. 日本野鳥の会.
13. 無記名 (1986) 気になる標識鳥情報. 日本鳥類標識協会誌 1: 30.
14. 沖縄野鳥研究会編 (2002) 沖縄の野鳥. 新報出版, 那覇.
15. 高野伸二 (1980) 野鳥識別ハンドブック. 日本野鳥の会, 東京.
16. 高野伸二・叶内拓哉・森岡照明 (1981) カラー写真による日本産鳥類図鑑. 東海大学出版会, 東京. (写真掲載は p. 181)
17. 所崎 聡 (2000) 鹿児島県におけるミヤマビタキの観察記録. BIRDER 14(11): 66.
18. 内田康夫 (1973) 日本迷鳥録 53 オジロビタキ *Muscicapa parva* ミヤマビタキ *Muscicapa ferruginea*. 週刊世界動物百科 (120): 2.
19. 山階鳥類研究所標識研究室 (1987) 昭和61年度鳥類観測ステーション報告. 山階鳥類研究所, 千葉.

20. ロクショウヒタキ *Muscicapa thalassina* (表5)

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず, Appendix B 検討中の種・亜種にも含まれていない. 本委員会の調査により, 文献上1例の記録が確認された(表5).

記録1(日本野鳥の会 1996)は, 東京都杉並区で記録されたもので, 記録年月日, 場所, 個体数, 記録者と「カゴ抜け?」との記述のみが掲載されている. この記録は, 日本野鳥の会野鳥記録検討会(1997)には掲載されていないことから, 公式記録としては認められなかったものと推測される. なお, 本種の学名は, *Eumyias thalassinus* とされることもある.

引用文献(文献番号は, 表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. 日本野鳥の会 (1996) フィールドノート. 野鳥 61(5): 44-45.
2. 日本野鳥の会野鳥記録検討会 (1997) 野鳥情報・観察記録 1995.8-1996.7. Strix 15: 149-160.

21. マダラヒタキ *Ficedula hypoleuca* (表6)

日本鳥類目録改訂第6版では, 記録として1例が挙げられており, 亜種マダラヒタキ *F. h. tomensis* とされている. 本委員会の調査により, 文献上1例の記録が確認された(表6).

記録1(矢田 1992)は, 石川県舳倉島で記録されたもので, 記録時の状況, 記録された個体の形態や行動, 鳴き声, 記録された場所の環境などについての記述が掲載されている. それによれば, この個体は, 1991年10月6-10日に舳倉島のクロマツ林において観察されたものであり, この記録は矢田(1992)の他にも多くの文献に掲載されている(石井 1992, 日本野鳥の会 1992a, 日本野鳥の会野鳥記録委員会 1992, 橋 1992, バーダー編集部 1993, 森岡 1998, 日本野鳥の会石川支部 1998, 五百沢ら 2000など). なお, 矢田(1992)は,

表5. ロクショウヒタキ *Muscicapa thalassina*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	D 1995.11.15	東京都	杉並区 和田堀公園	—	—	1	西田礼治	—	—	1	—

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 場所, 記録者など)のみ

表6. マダラヒタキ *Ficedula hypoleuca*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載、撮影者	出典	関連文献
1	1991.10.6-10.	石川県	輪島市 舳倉島	若鳥	—	1	矢田 孝	観察, 撮影	モノクロ2	10	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9

—: 記述なし・掲載なし

表7. コチャバラオオルリ *Niltava sundara*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載、撮影者	出典	関連文献
1 D	1997.10.23	沖縄県	沖縄島国頭 村伊地林道	—	オス	1	久高将和 他	保護, 撮影	—	2	1

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 場所, 記録者など)のみ

記録された個体の性別について言及していないが、日本野鳥の会野鳥記録委員会(1992), 森岡(1998)は、記録された個体を雄としている。バーダー編集部(1993), 五百沢ら(2000)は、記録された個体を第1回冬羽と記述している。

石井(1992), 日本野鳥の会(1992a), 日本野鳥の会野鳥記録委員会(1992)によれば、記録1の個体は1991年10月11日にも観察・撮影されている。日本野鳥の会(1992ab), 日本野鳥の会野鳥記録委員会(1992)によれば、この日の観察者は、山口達夫, 山口貞子, Nick Lathaby, 丹下研也, 石井照昭, 小山慎司, 能勢佳孝, 中島 宏, 中本 總, 平野賢次, 奥山寿人, 加藤 聡の各氏である。なお、日本野鳥の会野鳥記録委員会(1992)では能勢氏の名前が「佳考」、日本野鳥の会(1992b)では、加藤氏の名前が「総」と誤って記述されている(文屋 誠氏私信)。また、橘(1992)には「マダラヒタキ又はシロエリヒタキの亜種 どちらの種か不明」として、本記録が掲載されているが、初認年月日は、1991年10月5日と記述されている。森岡(1998)には「12日にも石井照昭氏により撮影されているから、少なくとも1週間は同島に滞在したようである。」との記述がある。この個体の写真は、矢田(1992)の他、石井(1992), バーダー編集部(1993), 森岡(1998), 五百沢ら(2000)に掲載されている。なお、この記録が掲載された文献は、いずれも亜種の同定を行っておらず、本記録の個体が亜種マダラヒタキ *F. h. tomensis* と同定された経緯は不明である。

引用文献(文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. バーダー編集部(1993) 続珍鳥・迷鳥大集合!! BIRDER 7(7): 8-9, 12-13, 22-23.
2. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2000) 日本の鳥 550 山野の鳥。文一総合出版, 東京。(写真掲載はp. 226)
3. 石井照昭(1992) 舳倉島に珍鳥を探して。BIRDER 6(2): 10-11.
4. 森岡照明(1998) 新しい識別の試み第16回 舳倉島のマダラヒタキ。BIRDER 12(8): 66-69, 104.
5. 日本野鳥の会(1992a) フィールドノート。野鳥 57(5): 50.
6. 日本野鳥の会(1992b) フィールドノート。野鳥 57(6): 49.
7. 日本野鳥の会石川支部編(1998) 石川の自然環境シリーズ石川県の鳥類。石川県環境安全部自然保護課。
8. 日本野鳥の会野鳥記録委員会(1992) 野鳥情報・観察記録1991.8-1992.7. Strix 11: 377-382.
9. 橘 映州(1992) 舳倉島の全記録鳥種目録作成ご協力をお願い。野鳥 57(11): 48.
10. 矢田 孝(1992) 日本初記録のマダラヒタキの観察。Strix 11: 356-358.

22. コチャバラオオルリ *Niltava sundara* (表7)

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず、Appendix B 検討中の種・亜種にも含まれていない。本委員会の調査により、文献上1例の記録が確認された(表7)。

記録1(嵩原ら 2000)は、沖縄県沖縄島で記録されたもので、久高将和氏からの私信として、記録年月日, 場所, 個体数, 性別, 記録者と「傷病

表8. チャバラオオルリ *Niltava vivida*

No.	記録 年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の 掲載、 撮影者	出典	関連文献
1	D 1989.5.2	沖縄県	沖縄島 糸満市西崎 中学校	—	オス	1	—	捕獲	—	1	2
2	D 1998.3.24	沖縄県	与那国島 祖内	—	オス	1	青木一夫, 撮影 本若博次, 福田篤徳他	—	— (関連 文献にあり)	3	2, 4

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 場所, 記録者など)のみ

鳥保護」および「写真があり」との記述のみが掲載されている。ただし、写真は掲載されていない。この記録は、沖縄野鳥研究会(2002)にも掲載されているが、高原ら(2000)より詳しい記述はなく、写真も掲載されていない。

引用文献(文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. 沖縄野鳥研究会編(2002) 沖縄の野鳥。新報出版, 那覇。
2. 高原建二・池長裕史・金城道男・渡久地豊・金城輝雄・庄山 守(2000) 沖縄県において野外観察や傷病鳥の保護及び博物館収蔵標本等により確認された興味深い鳥類の記録について—「沖縄県産鳥類目録」補遺一。沖縄県立博物館紀要(26): 27-46。

23. チャバラオオルリ *Niltava vivida* (表8)

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず、Appendix B検討中の種・亜種にも含まれていない。本委員会の調査により、文献上2例の記録が確認された(表8)。

記録1 (McWhirter *et al.* 1996) は、沖縄県沖縄島で記録されたもので、「1989年5月2日に糸満市の西崎中学校で1羽の雄が捕獲された。かご抜けである可能性が捨てきれない(原文英語)」との記述のみが掲載されている。この記録は、沖縄野鳥研究会(2002)にも掲載されているが、この文献には「保護された」と記述されている。なお、沖縄野鳥研究会(2002)では、記録された月が2月と記述されているが、これは誤植または誤引用と思われる。McWhirter *et al.* (1996) の著者の1人である高原建二氏によれば、記録された個体は、比嘉邦昭氏によって保護され、その後死亡したため沖縄県立博物館へ移管された。沖縄県立博物館から標本作製業者へ標本作製依頼がなされたが、死体の状態が

悪く作製不能との返答を得た。その直後に業者が亡くなったために標本(死体)は返却されず、所在不明となってしまったとのことである(高原建二氏私信)。

記録2(高原ら 2000) は、沖縄県与那国島で記録されたもので、記録年月日、場所、個体数、性別、記録者および「写真があり」との記述のみが掲載されている。ただし、写真は掲載されていない。記録された際の状況や記録された個体の形態や行動については、矢田(1998)に記述されており(矢田 孝氏撮影の写真2枚も掲載されている)、「前日まで強い風が吹き荒れていたため、現段階ではその影響で台湾あたりから迷行してきた、いわゆる『迷鳥』と考えるのが妥当なところだろう」との記述も掲載されている。ただし、矢田(1998)には記録年が明記されていない。この記録は、沖縄野鳥研究会(2002)にも比嘉邦昭氏撮影の写真とともに掲載されている。

引用文献(文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. McWhirter DW, Ikenaga H, Iozawa H, Shoyama M & Takehara K (1996) A Check-list of the birds of Okinawa Prefecture with notes on recent status including hypothetical records. Bulletin of the Okinawa prefectural Museum (22): 33-152.
2. 沖縄野鳥研究会編(2002) 沖縄の野鳥。新報出版, 那覇。
3. 高原建二・池長裕史・金城道男・渡久地豊・金城輝雄・庄山 守(2000) 沖縄県において野外観察や傷病鳥の保護及び博物館収蔵標本等により確認された興味深い鳥類の記録について—「沖縄県産鳥類目録」補遺一。沖縄県立博物館紀要(26): 27-46.
4. 矢田 孝(1998) 風に運ばれて? 珍客チャバラオオルリの撮影に成功。SCIaS(サイアス)1998年5月1日号: 8-9.

表9. セボシカンムリガラ *Parus spilonotus*

No.	記録 年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の 掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	D 1990.12.23- 24, 1991.1.26- 2.7, 2.10	北海道	札幌市郊外 石狩管内 広島町, 札幌郡 広島町白樺	—	—	1	根岸 工, 松井 昌, 山田良造	—	— (関連 文献にあり)	2	1, 4, 5

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 場所, 記録者など)のみ

表10. ルリガラ *Parus cyanus*

No.	記録 年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の 掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1987.11.8	北海道	利尻島南西 部のオタド マリ沼周辺	—	—	1	小杉和樹	観察, 撮影	モノクロ2	1	2, 3, 4, 5

—: 記述なし・掲載なし

24. セボシカンムリガラ *Parus spilonotus* (表9)

日本鳥類目録改訂第6版本文には掲載されておらず, Appendix B 検討中の種・亜種にも含まれていない. 本委員会の調査により, 文献上1例の記録が確認された(表9).

記録1(日本野鳥の会 1991)は, 北海道広島町で記録されたもので, 記録年月日, 場所, 個体数, 記録者および「カゴ抜け」との記述のみが掲載されている. この記録は, 日本野鳥の会野鳥記録委員会(1991)には掲載されていないことから公式記録としては認められなかったものと推測される. この記録は, 内藤(1991), 北海道新聞社(1997)にも掲載されている. 北海道新聞社(1997)を引用した藤巻(2000)は, 日本鳥類目録改訂第6版で採用されていないとの理由で, 本記録を目録本文には採用していない.

引用文献(文献番号は, 表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. 藤巻裕蔵(2000) 北海道鳥類目録改訂2版. 帯広畜産大学野生動物管理学研究室, 帯広.
2. 日本野鳥の会(1991) フィールドノート. 野鳥 56(12): 53.
3. 日本野鳥の会野鳥記録委員会(1991) 野鳥情報(1990.7-1991.6). Strix 10: 315-318.
4. 内藤 滋(1991) セボシカンムリガラ. BIRDER 5(8): 44.

5. 北海道新聞社編(1997) 最新版北海道の野鳥. 北海道新聞社, 札幌.

25. ルリガラ *Parus cyanus* (表10)

日本鳥類目録改訂第6版では, 記録として1例が挙げられており, 亜種ルリガラ *P. c. tianschanicus* とされている. 本委員会の調査により, 文献上1例の記録が確認された(表10).

記録1(小杉 1988)は, 北海道利尻島で記録されたもので, 記録された環境, 記録された個体の形態や行動, 鳴き声などについての記述が掲載されている. また, 本種の分布から「今回観察した個体は大陸から直接飛来した可能性がある」, 記録当時の天候から「低気圧など悪天候のために利尻島へ飛来したとはいえないであろう」と考察している. この記録は, 日本野鳥の会野鳥記録委員会(1987), 日本野鳥の会(1988ab), Brazil(1991), 小杉(2000)にも掲載されている. なお, 上記の文献は, いずれも亜種の同定を行っていない. 日本鳥類目録改訂第6版が本記録の個体を亜種ルリガラ *P. c. tianschanicus* としたのは, Morioka(2000)に基づくものであるが, Morioka(2000)は特に形態等の根拠は述べておらず「おそらく極東の亜種 *P. c. tianschanicus* (Menzbier, 1884) に帰されるであろう」としているにとどまる.

表11. ウィルソンアメリカムシクイ *Wilsonia pusilla*

No.	記録 年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の 掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1991.10.13- 14	石川県	舳倉島	若い	雄	1	文屋 誠, 小山慎司	観察, 撮影	モノクロ, 小山慎司	2	1, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9

—: 記述なし・掲載なし

引用文献(文献番号は, 表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. 小杉和樹(1988)日本におけるルリガラ初記録. *Strix* 7: 297-298.
2. 小杉和樹(2000)利尻島 クマゲラが棲む島. 寺沢孝毅(編)北海道島の野鳥: 62-83. 北海道新聞社, 札幌.
3. 日本野鳥の会(1988a)日本に舞い降りた野鳥たち. *野鳥* 53(4): 10-21.
4. 日本野鳥の会(1988b)フィールドノート野鳥情報観察記録. *野鳥* 53(5): 34.
5. 日本野鳥の会野鳥記録委員会(1987)野鳥情報・観察記録1986.8-1987.12. *Strix* 6: 110-118.
6. Morioka H (2000) Taxonomic notes on passerine species. In: Committee for check-list of Japanese birds (ed.) *Check-list of Japanese birds, sixth revised edition*: 289-325. The Ornithological Society of Japan, Obihiro.

26. ウィルソンアメリカムシクイ *Wilsonia pusilla* (表11)

日本鳥類目録改訂第6版では, 同定可能な写真または標本がない, 2亜種以上がある種で, 亜種を同定できない, またはかなり高い確度で推定できない, 論文として公表されていない, または公表されたが最終原稿に間に合わなかったとの理由から検討中の種としてAppendix Bに掲載されている. 本委員会の調査により, 文献上1例の記録が確認された(表11).

記録1(文屋1992)は, 石川県舳倉島で記録されたもので, 記録時の状況や記録された個体の形態や行動などについての記述が掲載されている. この記録は, 文屋(1992)の他に多くの文献に掲載されている(石井1992, 橘1992, 日本野鳥の会1992a, 日本野鳥の会野鳥記録委員会1992, パーダー編集部1993, 日本野鳥の会石川支部1998, 五百沢ら2000). このうち, 石井(1992), パーダー編集部(1993), 五百沢ら(2000)には写真も掲載されている.

同記録の観察者は, 日本野鳥の会(1992ab)と日本野鳥の会野鳥記録委員会(1992)によれば, 山口

達夫, 山口貞子, 文屋 誠, 能勢佳孝, 石井照昭, 小山慎司, 和田新一郎, 和田亜子, 加藤 聡の各氏である. なお, 日本野鳥の会野鳥記録委員会(1992)では能勢氏の名前が「佳考」, 日本野鳥の会(1992b)では, 加藤氏の名前が「総」と誤って記述されている(文屋 誠氏私信).

引用文献(文献番号は, 表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. パーダー編集部(1993)続珍鳥・迷鳥大集合!! *BIRDER* 7(7): 8-9, 12-13, 22-23.
2. 文屋 誠(1992)ウィルソンアメリカムシクイと会う. *BIRDER* 6(2): 18.
3. 石井照昭(1992)舳倉島に珍鳥を探して. *BIRDER* 6(2): 10-11.
4. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2000)日本の鳥550山野の鳥. 文一総合出版, 東京.(写真掲載はp. 251)
5. 日本野鳥の会(1992a)フィールドノート. *野鳥* 57(5): 50.
6. 日本野鳥の会(1992b)フィールドノート. *野鳥* 57(6): 49.
7. 日本野鳥の会石川支部編(1998)石川の自然環境シリーズ石川県の鳥類. 石川県環境安全部自然保護課, 金沢.
8. 日本野鳥の会野鳥記録委員会(1992)野鳥情報・観察記録1991.8-1992.7. *Strix* 11: 377-382.
9. 橘 映州(1992)舳倉島の全記録鳥種目録作成ご協力をお願い. *野鳥* 57(11): 48.

この報告をまとめるにあたり, 文献の提供, 記録内容の確認などに協力していただいた, 井上裕司氏, 梅木賢俊氏, 岡本久人氏, 風間辰夫氏, 片岡宣彦氏, 小杉和樹氏, 佐藤 進氏, 武下雅文氏, 高原建二氏, 所崎 聡氏, 所崎香織氏, 西田 智氏, 浜口哲一氏, 平野賢次氏, 藤田泰宏氏, 文屋 誠氏, 真野 徹氏, 渡辺靖夫氏, 吉川徹朗氏には心よりお礼申し上げます.

* 日本産鳥類記録委員会: 平岡 考・梶田学・池長裕史・亀谷辰朗・金井 裕・川路則友・西海 功・柳澤紀夫